

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名: **地域総合研究センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
自己評価	
①-1 目標	<p>①学生が地域の人々からの実践力を獲得する実践型社会連携教育プログラムを企画し、平成26年度概算要求(特別経費)として「社会の持続的発展を志向する 実践型社会連携教育プログラム構築による学都岡山創生プロジェクトーGood Habit(よき習慣化)をめざしてー」を申請し、次年度からの開発に着手できるよう体制を整備した。</p> <p>②次年度から実践型社会連携教育プログラムを実施すべく、地域総合研究センター運営委員会の改組、実践型社会連携教育専門委員会内規の制定等を行い、体制を整備した。特に運営委員については、全学部、全研究科から委員を選出する全学体制とした。</p> <p>③学生の地域貢献活動として「まちなかキャンパス事業」学生企画を継続実施、募集を行い、15件の採択を行うとともに、職員サポーター制度を導入し、職員が学生の活動を支援する体制を構築実施した。</p>
<p>①地域の現場の中での学生教育のあり方を検討する。</p> <p>②実践型地域連携教育プログラムの全学的実施について検討する。</p> <p>③学生の地域貢献の展開について支援する。</p>	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>①各学部選出委員と連携して地域での学生教育における現地活動指標のあり方を整理する。</p> <p>②学生の地域貢献サークルの活動を支援する(5グループ)</p>
<p>①各学部選出委員と連携して地域での学生教育における現地活動指標のあり方を整理する。</p> <p>②学生の地域貢献サークルの活動を支援する(5グループ)</p>	
②研究領域	
自己評価	
②-1 目標	<p>森田ビジョンに提起された「学都岡山」の実現に向け、学都研究を推進した。</p> <p>①「美しい学都」創生に向け、10/23.30まちなかキャンパス事業学生企画中間報告会を実施、1/22学都研究やまちなかキャンパス事業等の活動成果を発表する報告会「学都創生に向けて～地域資源としての大学の役割～」を開催し、市民や学生、教職員ら約120人が参加した。</p> <p>②学都構想の普及として、6/29学都創生シンポジウム、11/9金沢・熊本・岡山まちづくりシンポジウムを実施した。</p> <p>③学都研究等の報告書については、平成26年3月発行予定である。</p>
<p>①国際学都シンポジウムの開催を通じて、学都研究の成果を発表する。</p> <p>②学都構想について、ひとつの研究領域として、学内および学外に認知頂くよう一定の研究の成果を公表する。</p>	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>①国際学都シンポジウムの開催(年1回)、学都研究成果報告(機関誌として年1回刊行)。</p> <p>②地域研究を行った教員の成果報告会の実施(年2回)</p>
<p>①国際学都シンポジウムの開催(年1回)、学都研究成果報告(機関誌として年1回刊行)。</p> <p>②地域研究を行った教員の成果報告会の実施(年2回)</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	
自己評価	
③-1 目標	<p>①まちなかキャンパス事業として、城下ステーションを中心に9回の企画及び哲学カフェ6回を実施し様々なテーマで地域の方と大学が対話した。</p> <p>②学都構想に係わるまちづくり実践活動として次のものを実施した。</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山市: 西川緑道公園界隈の活性化</p> <p style="padding-left: 20px;">総社市: 山手地区地域包括ケア</p> <p style="padding-left: 20px;">笠岡市: 白石島多職種連携と地域包括ケア</p> <p style="padding-left: 20px;">新見市: 水辺のユニオン環境保全活動森林ボランティア</p> <p style="padding-left: 20px;">新見市: 医療ミーティング</p> <p>③「留学生のまち」事業として12項目を実施した。その中で大きな事業としてつぎのものがある。</p> <p style="padding-left: 20px;">オカヤマ・ウェルカム・ピクニック(6月9日)103名</p> <p style="padding-left: 20px;">サムライ・トリップinやかげまち(11月10日)42名</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山大学うるかむデー World Kitchen(12月11日)</p> <p>④「留学生のまち」事業を展開するにあたり、国際学術都市構想会議を開催し、おかやま留学生まちづくりコンソーシアムを組織した。</p> <p>⑤シンクタンク機能としては、岡山市経済懇話会から「岡山市商業調査」、岡山市より「西川パフォーマー事業検証及び西川緑道公園周辺現況調査業務」、倉敷市より「倉敷市商工業活性化ビジョン策定アドバイザー業務」を受託し、学生の協力により調査活動を実施し、提案を盛り込んだ報告書を作成した。</p> <p>⑥学都研究等の報告書については、平成26年3月発行予定である。</p>
<p>①地域社会との連携による地域活動への参画を目指す。</p> <p>②学都構想に係わる地域貢献</p> <p>③「留学生のまち」事業の展開を図る。</p> <p>④学都実現に向けたシンクタンク機能の発揮を図る。</p>	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>①まちなかキャンパスの開催(月1回)</p> <p>②留学生のまちなか活動への参加を実施する(50名)</p> <p>③国際学術都市構想会議の開催(年4回)。</p> <p>④学都シンポジウムの開催(2回)。</p> <p>⑤学都研究の成果を報告書として刊行し、内外に広報(年1回)。</p>
<p>①まちなかキャンパスの開催(月1回)</p> <p>②留学生のまちなか活動への参加を実施する(50名)</p> <p>③国際学術都市構想会議の開催(年4回)。</p> <p>④学都シンポジウムの開催(2回)。</p> <p>⑤学都研究の成果を報告書として刊行し、内外に広報(年1回)。</p>	
④センター業務	
自己評価	
④-1 目標	<p>①昨年度同様に、学都研究を4本立てに定義し10事業を実施した。各研究研究成果は、平成26年3月発行の学都研究報告書として取りまとめた。</p> <p>②各部局より学都構想推進に資する取組を公募し、審査に通過した9組の取組の支援を行った。また、職員・学生のまちづくりに対する取組についても支援を行い、学内公募により採択された4組の職員企画、15組の学生企画の実施を補助した。</p> <p>③文部科学省「留学生交流拠点整備事業」による「留学生のまちづくり」事業を通じて、留学生がまちと関わり、地域とふれあうための支援を行った。具体的な活動としては次の通りである。</p> <p style="padding-left: 20px;">オカヤマ・ウェルカム・ピクニック(6月9日)</p> <p style="padding-left: 20px;">サムライ・トリップinやかげまち(11月10日)</p> <p style="padding-left: 20px;">岡山大学うるかむデー World Kitchen(12月11日)</p> <p>④「留学生のまちづくり」事業を継続実施するため、岡山コンベンションセンターとの対話を行い、次年度からの支援を受ける予定である。</p>
<p>①地域貢献・グローバル化の推進</p> <p style="padding-left: 20px;">学都構想に掲げられたグローバル人材と地域社会の担い手の養成を図るため、特に本学が国際的な視野を持ち地域社会で活躍する中核的人材育成の拠点となるために必要な方策を学内の関係部局等と検討し、可能なものから着手する。</p> <p>②留学生のまちなかでの活動推進</p> <p style="padding-left: 20px;">留学生に活躍の場を提供するため、まちなかキャンパス等を活用し、地域活動の強化を図る。</p> <p>③学生のまちなか活動推進</p> <p style="padding-left: 20px;">日本人学生が自治体や経済界と協働するための協議や調査を行うとともに、フィールドワークや企業交流等のプログラムの充実を図る。</p> <p>④地域社会とのネットワーク化を図るため、産学官が連携した学生が主導するまちづくり検討会の立ち上げを支援する。</p>	
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	<p>①新たな地域での研究会への参加。</p> <p>②まちなかキャンパスにおける事業の充実。</p> <p>③センターが実施する研究プログラムにより本学学生100名程度が地域活動に参画。</p> <p>④自治体や経済界と連携した継続性のある留学生向け企画の実施。</p>
<p>①新たな地域での研究会への参加。</p> <p>②まちなかキャンパスにおける事業の充実。</p> <p>③センターが実施する研究プログラムにより本学学生100名程度が地域活動に参画。</p> <p>④自治体や経済界と連携した継続性のある留学生向け企画の実施。</p>	
【総括記述欄】	
<p>少数教員、事務職員にも関わらず、目標を十分に達成できている。また、地域における大学の重要性、必要性が高まったと思われる。次年度は、実践型社会連携教育プログラムを開発実施することもあり、地域からの期待がさらに高まることと思われる。全学的協力体制の下、地域の地域の核となる大学を目指し、学都実現に貢献したい。</p>	